安全マニュアル・安全管理チェックシート

2016 年 11 月作成・公表

2018 年４月（案）作成・公表

2019 年４月（改訂増補版）公表

2019 年 11 月改訂・公表

一般社団法人日本森林インストラクター協会

構　　成

第１部　森林体験学習活動（参加者に子どもが含まれる活動）　・・・・・・・・・・・・・　３
はじめに
１．安全管理チェックシートの活用の前に
２．安全管理の基本
３．安全管理チェックシート

第２部　森林体験ツアー等（共同企画または自主企画による森林体験ツアー等）　・・・　１９
はじめに
１．安全管理チェックシートの活用の前に
２．安全管理の基本
３．安全管理チェックシート

第３部　安全確保のために留意するその他の事項　・・・・・・・・・・・・・・・・・・・　３４
１．ヒヤリハットの重要性について
２．保険について

※本書を活用する方へ

上記の３部構成において、第１部及び第２部の「はじめに」、「１．安全管理チェックシートの活用の前に」、「２．安全管理の基本」については、森林体験活動の安全確保についての理解をより深めていただくために作成したもので、イベント等を実施する場合の事前の指導者研修の資料等としてご活用ください。第３部についても同様にご活用ください。

イベント等の実施にあたっての安全管理の実務においては、第１部または第２部の「３．安全管理チェックシート」を参考にして、実際のイベントに即して不要なチェック項目を削除したうえで活用していただくことを想定しています。

目　　次

第１部　森林体験学習活動（参加者に子どもが含まれる活動）・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 3
はじめに ・・・・・・・・・・・・・・・・・・

第１部　森林体験学習活動（参加者に子どもが含まれる活動）

はじめに

この安全マニュアル及び安全管理チェックシートは、森林インストラクターが学校や子ども会など、参加者に子どもが含まれる森林体験学習を企画または指導する場合に活用することを想定して作成したものであり、ここに掲載した「安全管理チェックシート」は、様々な森林体験学習活動においてチェックすべき項目を網羅的にリストアップしたものです。

一般社団法人日本森林インストラクター協会（以下、FIJ という）としては、第１部及び第３部を活用して森林インストラクターが活動の安全管理を行うことを強く推奨し、これをもって、FIJ の安全マニュアルとするものです。

＊＊＊

森林体験学習とは、森林をフィールドとして、組織的、計画的に一定の教育的目標をもって行われる体験活動であり、内容について特段の定めはありませんが、キャンプ、自然観察、ハイキング、バードウォッチング、森林内でのゲーム、クラフトづくり、植林や下刈り等の林業体験など多種多様なものが含まれます。

したがって、森林体験学習活動を行う主催者や指導者は、活動の規模、内容、場所、時期などに応じて、このチェックシートを参考として、該当する項目選び、各々の活動にふさわしい活動チェックシートを作成してチェックする必要があります。

なお、このチェックシートは、全国緑化推進委員会連絡協議会及び公益社団法人国土緑化推進機構が 2015 年 8 月 11 日に発行した『子どもたちと森のステキな出会いのために「森林体験学習活動を安全に行うための Q&A」』の別冊『安全管理チェックシート』を基に必要と考えられる項目を追加し作成したものですが、この冊子の作成にあたった検討委員会には、一般社団法人日本森林インストラクター協会会員の森林インストラクターが参画し、当協会の安全委員会の委員の意見も参考にして作成されたものです。

この安全管理チェックシートでは、各シートの冒頭に、以下のように、①記入日、②記入者名、③できなかった項目数の記入欄（本チェックシートは二段）を設けています。

年　　月　　日　記入者名　　できなかった項目数

続いて、項目ごとに、チェック欄（□）を二つ設けています。

□□１－１　　（チェック内容の記載）

このように、各チェックシートは 2 回分のチェック用として使用することができるので、違いを比較することによって、問題点の洗い出しや改善措置の検討に役立てやすくなっています。

前述の『子どもたちと森のステキな出会いのために「森林体験学習活動を安全に行うための Q&A」』と併せて活用してください。同冊子は、国土緑化推進機構の下記サイト
https://www.green.or.jp/news/news-green-fund/green_fund_entry_914/
に全文が公開されていますので、これを参照してください。

また、森林体験学習のうち、森林内での間伐体験や下刈り、枝打ち作業の体験活動を行う場合は、作業種ごとに、別途、上記のサイトにある「森づくり作業安全管理チェックシート」を参考にしてください。

１．安全管理チェックシートの活用の前に

（１）なぜ森林体験活動か

森林学習活動をすることは、自然の中に身を置くことであり、危険に遭遇する可能性を常に孕んで

います。にもかかわらず、なぜ、森林の中で子どもたちに森林体験学習をする機会が必要なのでしょうか。それは、子どもたちと森のステキな出会いが必要だからです。このことが前提であることを、しっかりと再認識することが大切です。

子どもたちは、森林の中で体を動かすことを通じて、心地良い汗をかき、楽しさや爽快感などを味わうことができます。同時に、活動を通じて、友人たちと協力し合うことの大切さやその方法、あるいは、自然の力の大きさや活動に伴う危険性と自分の身を守る術を体得できるなど、子どもたちの「生きる力」を育むことが考えられています。

（２） 森林体験学習活動とは

森林体験学習活動とは、「森林」をフィールドとして行われる「体験活動」であること、主催者が、組織的、計画的に行うものであって一定の教育的な目標を持っていることが要件となります。

具体的な活動の内容については、特段の定めはありませんが、キャンプ、自然観察ハイキング、バードウォッチング、各種ネイチャーゲーム、鳥の巣箱などクラフトづくり、植林や下刈り、間伐等林業体験、炭焼き体験など多種多様なものが含まれます。

子どもたちが森の中で行う活動には、程度の差はあっても教育的な意義が含まれているものと考えられますが、主催団体などが活動の目的として教育的な意義を意識して行われるものを森林体験学習活動と呼ぶこととします。

様々な体験活動（自然観察・キャンプ・林業体験など）
図は『“子どもたちと森”のステキな出会いのために』より引用

（３） 森林体験学習活動によって期待できる効果

森林は、樹木をはじめ多様な動植物が相互の関わりの中で生命活動を営んでおり、これらを取り巻く水・空気・土などの多様な要素とともに形成されたひとつの生態系であり、極めて優れた環境教育の場であると考えられます。

すなわち、森林体験学習活動においては、様々な状況において、子どもたち自らが判断し、行動することにより、新しい発見や驚き・感動を味わうことができること、自らの行動で体験し学んでいくことにより、子どもたちの生きる力が育まれることが期待されます。

また、実際の体験活動に裏打ちされることにより、知識の広がりや深みが生まれ、その経験が日常の生活態度に実感をもって組み込まれることが可能になるというような波及効果が考えられます。

（４） 子どもたちに木を伐らせる活動を行うことの必要性について

自然やあらゆる命を大切に思う心を育むという教育的な観点があり、また、世界の森林面積の減少が地球温暖化の原因になるなど深刻な環境劣化が懸念される中で木を伐る体験活動は、その直接

的な原因である森林の伐採を容認することにつながると批判される場合があります。

木を伐る活動を子どもたちに行わせることは、木材が再生産可能な資源であり、木材が環境負荷の少ない資源であることを子どもたちに理解させ、命の大切さと同時に自然と人間の共存のあり方などに目を向けさせることなどを目的に行うものです。

子どもの発達段階に応じて、木を伐採する行為を通じて自らの頭で考え、答えを導き出すことができるような学習プログラムを準備することが重要です。例えば、間伐体験の前に、よく手入れされた人工林と放置された人工林を見せて、その違いについて、子どもたちに考えてもらうことができれば、体験活動がより一層森林を理解する機会につながると思われます。

２．安全管理の基本

子どもたちの森林体験活動について、森林インストラクターは、主催者、企画者、講師、指導者など、時に応じていろいろな立場となることがあります。子どもたちの安全を確保するため、活動に関わるいろいろな立場の人が、分担協力することが必要です。

主催者と指導者という一般的な立場の区分だけでなく、例えば、林間学校などの学校における特別活動の場合は、主催者と現場指導者及び参加者（子どもたち）、さらに、学校や保護者が関わることから、それぞれが、実施形態や内容に応じて、緊密に連携協力することが大切となります。

事故の事例を検証すると、その９割以上が、**「現場活動における安全管理の３本柱」**が徹底して行われていなかったことや指揮命令系統が不正確だったことに起因しています。

（１）現場活動における安全管理の３本柱

①事前の下見

下見の結果に伴い必要に応じて計画案を修正する。

②天候判断

最新の気象情報をインターネット等で収集するとともに、実施地域に伝えられている観天望気の情報に配慮するほか、現地に精通した指導的立場の人の観天望気等も参考にして判断する。

③現場説明（セーフティートーク）

活動の当日、活動内容を参加者に周知し、参加者の様子を確認する。

上記の安全管理の３本柱を徹底することと同時に、企画段階において、是非必要な心構えとして次の４項目が考えられます。

（２）企画段階で必要な４つの心構え

①余裕をもったプログラム

プログラムは無理がなく余裕をもったものとし、活動の目的・内容・対象者を明確にし、それにふさわしい場所・時間・指導者・施設・機材などを準備し活動プログラムを構成する。

②下見はスタッフ全員で行う

活動プログラムを立てるに当たっては、必要に応じて、複数回の下見を実施することも考慮し、実施日に近い日のできるだけ実施条件に近い状況において、当日のスタッフ全員で行うことが望まれます。

③事前説明会等により信頼関係の構築

学校行事などの規模の大きな活動では、参加者や保護者に対して活動に関する様々な情報を伝える必要があります。このため、事前説明会を開催し、活動の趣旨やリスクとその対処方法の説明を行い、様々な懸念や不安を除き、信頼関係を作り上げる努力を行うことが必要です。

④スタッフの力量を最大限に発揮する

安全にプログラムを実施するためにスタッフの力量を最大限に発揮することが必要。このため、

統括責任者、プログラムの指導や進行を担当するスタッフ、参加者の安全や生活指導を担当するスタッフ及び支援する裏方の人材、人数を確保し、役割分担と連携体制を十分確認します。

（3） 子どもの特性に応じて留意すべきこと

事故にかかわる過去の判例では、子どもの特性を考慮したかどうかが争点とされています。

子どもは危険予知能力が相対的に低いため「危ない」というだけでは注意したことにはならず、どのようなところに危険が潜んでいるのか見つけてやり、それを回避する方法を教えることが必要です。

また、森林の中での子どもたちの行動は予測しがたく、野外活動における子どもの死亡事故で多いのは、子どもが目の届かないところへ行ってしまういわゆる「子どもの見失い」といわれています。主催者や現場指導者は、事前の下見や危険予知訓練等により、「見失い」を防止する指導方法や行動特性を捉えた事故の防止に留意する必要があります。

子どもの危険予知能力は、経験によって獲得していく側面もあることから、自分の身は自分でまもろうとする意識をもたせることも必要です。例えば、刃物も危険だから使わせないのではなく、正しい使い方を伝えたうえで刃物を使った活動を行うことが必要といえます。

ネイチャークラフトの作業で、グルーガンなどによる火傷の事故は時々発生しますが、特に幼児はグルーガンが熱いことを認識できない場合もあり、注意が必要です。

３． 安全管理チェックシート

はじめに

安全管理チェックシートとは、活動を実施する際に、企画づくりから実施後の評価まで、各プロセスの各段階において、安全を確保する観点から必要な事項をリスト化し、それぞれについて実施状況の確認（チェック）を行えるように取りまとめたシートのことです。安全管理チェックリストということもあります。

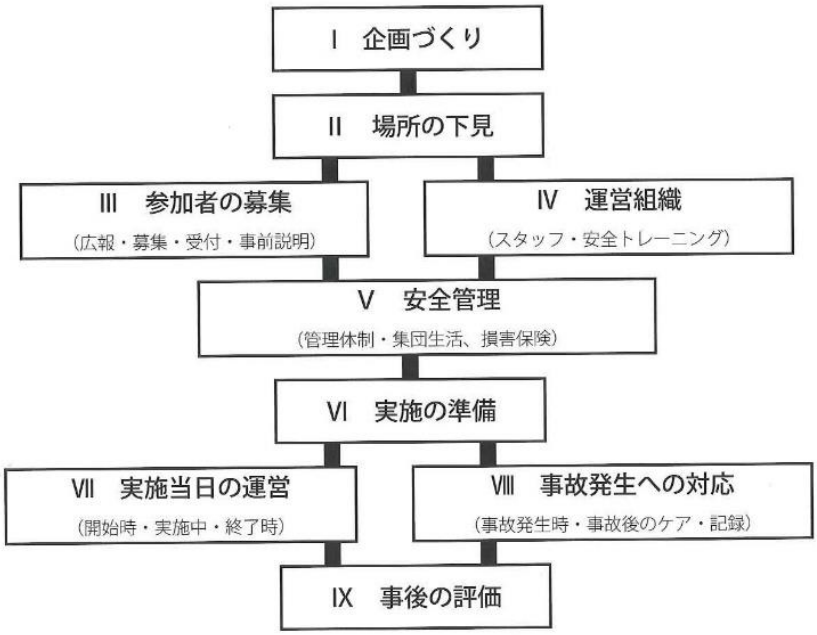
（1） 安全管理チェックシートの構成

近年、森林インストラクターの活動は、企画内容、場所、形態、対象も子どもたちから高齢者まで、極めて多岐にわたっています。したがって、総括的なリスク管理マニュアルだけでなく、活動の種別ごとに、安全管理チェックシートを是非、準備し活用することが必要といえます。

そして、これらのマニュアルやチェックシートは、継続的に見直し、活動団体やグループでしっかり共有することが大切です。

チェックシートの構成としては、時系列順に考えると、一般に下図のように９項目で構成されます。また、安全管理チェックシートは、活動の実態に合わせて作成することが大切です。

安全管理チェックシートの構成



なお、以下に掲載している安全管理チェックシートでは、上記の９項目を考慮した上で、次の３段階の項目にまとめて区分しています。

Ⅰ　企画段階のチェックシート　（上記のⅠ、Ⅱ）
Ⅱ　実施段階のチェックシート　（上記のⅢ、Ⅳ、Ⅴ、Ⅵ）
Ⅲ　実施当日のチェックシート　（上記のⅦ、Ⅷ、Ⅸ）

（2） チェックシート作成上の重要項目

各チェックシートに①記入日、②記入者名、③チェック欄を記入する。

また、以下に留意して作成する。

a. 企画づくり

・意図や目的が明確であること

・関連する法令を遵守しているかなど

b. 場所の下見

・集合場所は分かりやすく安全な場所か

・危険の予測、分析、対処の方法

・携帯電話の通話範囲確認

・トイレの状態

・倒木・枯れ木・落枝の危険性の確認など

c.参加者の募集

・関係者（現地の管理者・市町村などを含む）に活動内容を周知しているか

・傷害保険の加入告知

・必要装備・活動のリスクについての告知

・天候によるプログラム変更の告知

・募集にあたってのトラブル問合せ先

・参加者名簿を作成しているかなど

d.運営組織

・スタッフの人材・人数は適切か

・危険予知訓練が可能な人材はいるかなど

e.安全管理

・子どもの活動の場合は、子どもの特性に配慮して作成するなど

f.実施の準備

・活動前のスタッフミーティング

・天候による活動変更の決定連絡体制など

g.実施当日の運営

・スタッフと参加者のコミュニケーション

・危険個所の説明と危険個所での再度説明や対応など

h.事故発生の場合の対応は迅速、誠実になど

i.事後のヒヤリ・ハットの分析・改善策など

上記に留意していろいろなケースを想定し、網羅的に作成した安全管理チェックシートが、次ページ以降のチェックシートです。したがって、実際の活動に適用する場合は、その内容に応じて、不要な項目は削除し、もし不足している項目があれば追加し、活動に適合するチェックシートを作成して利用してください。

なお、チェックシートに追加した項目があれば、今後の安全マニュアルの見直しの貴重な参考資料となりますので、FIJ 安全委員会または FIJ 事務局にお知らせ下さい。

（３） 安全管理チェックシート（参加者に子どもが含まれる活動）

Ⅰ　企画段階のチェックシート

森林体験学習活動安全管理チェックシート（企画づくり）

年　　月　　日　　曜　記入者名　　できなかった項目数

年　　月　　日　　曜　記入者名　　できなかった項目数

□□１－１　活動の意図や目的が明確になっていますか
□□１－２　参加者の対象範囲が明確になっていますか
□□１－３　活動目的にふさわしい活動内容になっていますか
□□１－４　活動目的にふさわしい活動フィールドですか
□□１－５　実施責任者や担当者が決められていますか
□□１－６　関係者や地元の協力が得られていますか
□□１－７　わかりやすい企画書になっていますか
□□１－８　収支計画がきちんと立てられていますか
□□１－９　関連する法規などを遵守していますか

森林体験学習活動安全管理チェックシート（場所の下見）

年　　月　　日　　曜　　記入者名　　できなかった項目数

年　　月　　日　　曜　　記入者名　　できなかった項目数

□□２－１　実施日における交通機関ダイヤを確認していますか
□□２－２　集合場所はわかりやすい、かつ安全な場所となっていますか
□□２－３　案内地図と現地の状況は一致していますか
□□２－４　休憩施設や休憩地点は、安全な場所となっていますか
□□２－５　スズメバチ、マムシ、クマなどの危険な動物の有無を確認していますか
□□２－６　ウルシ、ハゼノキなどのかぶれる毒性の強い植物の有無を確認していますか
□□２－７　野生動物による農作物・林業被害防止等のための狩猟活動や罠の仕掛け、電気柵の有無を確認していますか
□□２－８　活動プログラムの所要時間を確認していますか
□□２－９　携帯電話の通話範囲を確認していますか
□□２－１０　水の補給地点を確認していますか
□□２－１１　避難施設を確認していますか
□□２－１２　エスケープルートを確認していますか
□□２－１３　活動を行うための十分な広さと危険物がないことが確保されていますか
□□２－１４　トイレの所在とその使用状況を確認していますか
□□２－１５　臨時のトイレを設置する場合、その場所を決めていますか

□□２－１６　最寄りの救急病院、診療所などの医療施設の連絡先と連絡方法、そこまでの到達時間を確認していますか
□□２－１７　最寄りの消防署（救急隊）からの距離と到達時間及びルートを確認していますか
□□２－１８　最寄りの AED までの距離とそこまでの到達時間を確認していますか
□□２－１９　地元の関係機関（役場、警察、消防署など）と情報を共有していますか
□□２－２０　救命、救急連絡先（電話番号など）を確認していますか
□□２－２１　活動場所の管理者又は所有者の使用許可をもらっていますか
□□２－２２　案内板、道標などの案内施設は正しく表示されていますか
□□２－２３　山歩きの場合、迷いやすい分岐路やけもの道などを確認していますか
□□２－２４　保安施設（杭、柵、ロープなど）に異常はありませんか
□□２－２５　落石、崩落、雪崩などの危険性などについて確認していますか
□□２－２６　倒木、枯れ木、落枝などの危険性などについて確認していますか

Ⅱ　実施段階のチェックシート

森林体験学習活動安全管理チェックシート（参加者の募集―１）

年　月　日　曜	記入者名	できなかった項目数
年　月　日　曜	記入者名	できなかった項目数

（広報）

□□３－１　わかりやすい、関心を惹く募集パンフレットになっていますか
□□３－２　組織の関係者に活動の目的や内容が周知されていますか
□□３－３　市町村、関係団体などに広報のための募集要項を届けていますか
□□３－４　新聞、テレビ、ラジオなどのマスコミ機関に知らせていますか
□□３－５　その他、あらゆる方法で集客の努力をしていますか

（募集・受付）

□□３－６　募集パンフレットには、募集要項（名称、目的、期間、場所、募集人員、応募資格、集散場所、集散時刻、宿泊先、参加費、申込方法等）が記載されていますか
□□３－７　活動プログラムの内容を知らせていますか
□□３－８　天候等により活動プログラムの中止・変更がありうることを知らせていますか
□□３－９　申込者の連絡先（日中連絡がとれる電話番号など）を把握していますか
□□３－１０　活動プログラムを指導する講師を知らせていますか
□□３－１１　参加者の服装、持ち物などの情報を知らせていますか
□□３－１２　参加のキャンセル方法について知らせていますか
□□３－１３　傷害保険への加入について知らせていますか
□□３－１４　参加できる健康状態について知らせていますか
□□３－１５　体験活動上のリスクについて知らせていますか
□□３－１６　参加者の健康状態（蜂アレルギー・食物アレルギーの有無なども）を把握していますか
□□３－１７　健康チェックシートを提出してもらうことを主催者から知らせていますか
□□３－１８　持病がある場合、医師の診断書が必要なことを告知していますか
□□３－１９　必要に応じて保護者の同伴を求める場合があることを知らせていますか
□□３－２０　子どもの場合、保護者の参加同意書が必要なことを、主催者から知らせていますか
□□３－２１　募集に当たってのトラブル、問い合わせに対応する責任者を決めていますか
□□３－２２　参加者名簿（氏名、住所、保護者名、連絡先など）を作成していますか

森林体験学習活動安全管理チェックシート（参加者の募集―２）

年	月	日	曜	記入者名	できなかった項目数
年	月	日	曜	記入者名	できなかった項目数

（事前説明会）

□□３－２３　主催者が事前説明会の資料を作成していますか
□□３－２４　スタッフ、指導者の紹介をしていますか
□□３－２５　説明スタッフの役割分担（目的・予定説明、注意事項、安全管理など）ができていますか
□□３－２６　活動の目的をわかりやすく説明していますか
□□３－２７　交通機関、所要時間、集散場所、集散時刻等について説明していますか
□□３－２８　活動内容やスケジュールについて説明していますか
□□３－２９　自然体験のリスクについて説明していますか
□□３－３０　安全管理の体制について説明していますか
□□３－３１　傷害保険の加入について説明していますか
□□３－３２　服装と携行するものについて説明していますか
□□３－３３　天候等が変わった場合の 代替プログラムについて説明していますか
□□３－３４　中止の場合の連絡方法について説明していますか
□□３－３５　参加できる健康状態について説明していますか
□□３－３６　個人情報は目的外には使用しないことを説明していますか
□□３－３７　参加同意書について説明していますか
□□３－３８　出発前までの健康管理や生活習慣について説明していますか
□□３－３９　キャンセル方法について説明していますか
□□３－４０　参加費（宿泊費、食事代、交通費、保険料など）について説明していますか
□□３－４１　シャツ、ズボン、手袋、靴、帽子など服装について説明していますか
□□３－４２　ザック、雨具、水筒など携行する装備について説明していますか
□□３－４３　参加できなかった保護者に対して、事前説明会の資料を、主催者から届けていますか

森林体験学習活動安全管理チェックシート（運営組織）

年	月	日	曜	記入者名	できなかった項目数
年	月	日	曜	記入者名	できなかった項目数

□□４－１　全体を統括する責任者を決めていますか
□□４－２　活動規模に対してスタッフ数は足りていますか
□□４－３　プログラムの進行を担当するスタッフがいますか
□□４－４　スタッフの役割分担を決め、その記録をとっていますか
□□４－５　森林の生態系について解説できるスタッフがいますか
□□４－６　地形図とコンパスが使えるスタッフがいますか
□□４－７　歩き方の指導ができるスタッフがいますか
□□４－８　生活指導ができるスタッフがいますか

□□４－９　気象情報を読めるスタッフがいますか
□□４－１０　危険な生物への対処ができるスタッフがいますか
□□４－１１　活動に使用する装備や道具の使い方がわかるスタッフがいますか
□□４－１２　無線機などの通信機器が扱えるスタッフがいますか
□□４－１３　携帯電話の使用できるエリアを把握していますか
□□４－１４　緊急時に連絡すべき連絡先やスタッフの携帯電話の番号を確認していますか
□□４－１５　無線機などの通信機器が扱えるスタッフがいますか
□□４－１６　危険予知トレーニングなどの講習を受けたスタッフがいますか
□□４－１７　救助・救命措置ができるスタッフがいますか

森林体験学習活動安全管理チェックシート（安全管理－１）

年　　月　　日　　曜　記入者名　　できなかった項目数
年　　月　　日　　曜　記入者名　　できなかった項目数

（安全管理体制）
□□５－１　参加者の健康状態を主催者が把握していますか（子どもの宿泊を伴う場合は生活習慣も）
□□５－２　時間的な余裕を持たせたスケジュールとなっていますか
□□５－３　季節に適合した活動プログラムとなっていますか
□□５－４　岩場、湖沼など人命にかかわる危険な場所を点検していますか
□□５－５　危険な活動に対応する装備を準備していますか
□□５－６　最新の気象状況を把握できる準備ができていますか
□□５－７　緊急時のエスケープルートが確保または検討されていますか
□□５－８　安全の行動基準（中止・変更など）が作成されていますか
□□５－９　活動場所の近くに避難できる施設や場所を確保していますか
□□５－１０　事故発生時の行動チャートやマニュアルを作成していますか
□□５－１１　事故発生時のスタッフの役割が周知されていますか

（集団生活：宿泊を伴う場合）
□□５－１２　子どもたちに「自分のことは自分でする」という姿勢をもたせるよう指導していますか
□□５－１３　集団生活上のルールについて周知していますか
□□５－１４　寝室、浴室、トイレ、避難路などの施設について説明していますか
□□５－１５　食事の時間、内容は適切になっていますか
□□５－１６　就寝時間や起床時間が周知されていますか
□□５－１７　参加者の健康状態（発熱など）をチェックしていますか
□□５－１８　部屋の清掃、ゴミの処理、身支度などについて指導していますか
□□５－１９　共同生活上の悩み事を話せる状態が作られていますか

森林体験学習活動安全管理チェックシート（安全管理―２）

年　月　日	記入者名	できなかった項目数
年　月　日	記入者名	できなかった項目数

（損害保険）

□□５－２０　参加者は傷害保険に加入していますか
□□５－２１　スタッフは傷害保険に加入していますか
□□５－２２　主催者は賠償責任保険に加入していますか
□□５－２３　宿泊を伴う活動の場合、旅行保険に加入していますか
□□５－２４　自動車を使用する場合、自動車保険に加入した車両を使っていますか
□□５－２５　保険会社（代理店）に相談する人がいますか
□□５－２６　保険金額、免責事項が分かっていますか

森林体験学習活動安全管理チェックシート（実施の準備）

年　月　日　曜	記入者名	できなかった項目数
年　月　日　曜	記入者名	できなかった項目数

□□６－１　スタッフ用の活動マニュアルを作成し、説明していますか
□□６－２　活動前のスタッフミーティングを行い、その記録をとっていますか
□□６－３　下見情報をスタッフ全員で共有していますか
□□６－４　天候による実施可否の判断と連絡体制を整えていますか
□□６－５　荒天時の代替プログラムの実施体制を確認していますか
□□６－６　スタッフに最新の気象情報を伝えていますか
□□６－７　スタッフに最新の交通情報を伝えていますか
□□６－８　スタッフの健康状態を確認していますか
□□６－９　実施体制に変更がある場合、スタッフにその情報を伝えていますか
□□６－１０　受付の準備は整っていますか
□□６－１１　新聞、テレビなどの取材がある場合、対応者を決めていますか
□□６－１２　器具を使用する場合、器具の作動状況を点検していますか
□□６－１３　救急用品の内容を点検（使用期限のチェックを含む）していますか
□□６－１４　救助、救命のための装備を点検していますか

Ⅲ　実施当日の運営のチェックシート

森林体験学習活動安全管理チェックシート（実施当日の運営－１）

年　　月　　日　　曜　　記入者名　　できなかった項目数

年　　月　　日　　曜　　記入者名　　できなかった項目数

（開始時）

□□７－１　　参加者名簿に基づき、参加者を確認していますか

□□７－２　　遅刻者に対する対応策がとれていますか

□□７－３　　スタッフや関係者を紹介していますか

□□７－４　　プログラムの目的や行動予定をわかりやすく説明していますか

□□７－５　　当日歩く場所の地図を参加者に渡して説明していますか

□□７－６　　スタッフと参加者とのコミュニケーション作りをしていますか

□□７－７　　グループの編成は適正ですか

□□７－８　　当日の健康状態が優れない参加者への対応は適切ですか

□□７－９　　宿泊を伴う場合、集団生活の注意事項をわかりやすく説明していますか

□□７－１０　参加者の健康状態を確認していますか（子どもの場合、体温、食欲、排便、睡眠など）

□□７－１１　上着、ズボン、靴、帽子などの服装を点検していますか

□□７－１２　雨具、水筒、手袋などの携行品を点検していますか

□□７－１３　活動エリア内の危険個所について説明していますか

□□７－１４　「自分の安全は自分自身で守る」ことを納得させていますか

□□７－１５　移動中の経路の安全確認は十分ですか

□□７－１６　携帯する水筒には、傷の洗浄用を兼ねて、水道水を入れていますか

□□７－１７　出発までに用便を済ませるよう知らせていますか

□□７－１８　準備体操やアイスブレーキングの実施などにより不必要な緊張や懸念を取り去っていますか

森林体験学習活動安全管理チェックシート（実施当日の運営―２）

年　　月　　日　　曜　　記入者名　　できなかった項目数

年　　月　　日　　曜　　記入者名　　できなかった項目数

（実施中）

□□７－１９　統括責任者は、グループ全体を常に把握していますか

□□７－２０　スタッフは、活動プログラムを適切に指導していますか

□□７－２１　プログラムに対する参加者の反応を把握していますか

□□７－２２　道具の使い方を適切に指導していますか

□□７－２３　危険な場所にはスタッフを配置していますか

□□７－２４　危険な個所では、その都度注意を喚起していますか（濡れた木道や排水溝の鉄の格子蓋、緩い下り坂で転倒骨折の事例がある）

□□７－２５　天候の変化などに応じて柔軟に対応していますか（危険と判断したら計画を変更または中止する）

□□７－２６　危険な個所を発見したとき、他のグループに伝えていますか

□□７－２７　活動中のペースを確認していますか（ペースが速すぎ貧血や熱中症で倒れることがある）
□□７－２８　休憩ポイントなどで人数を確認していますか
□□７－２９　活動中における服装の乱れに注意していますか
□□７－３０　参加者の疲労具合を把握していますか
□□７－３１　雨具の着用について指導していますか
□□７－３２　トイレがある場所を周知していますか
□□７－３３　グループを離れる場合、必ずスタッフに伝えることを周知していますか
□□７－３４　緊急のトイレなどで隊列を離れる場合、離れるときと帰ってきたときに必ず指導者に報告するよう注意していますか
□□７－３５　自由時間（昼食など）での行動範囲を周知していますか
□□７－３６　参加者が互いに交流する自由な時間が用意されていますか
□□７－３７　活動中におけるゴミ処理の方法について説明していますか
□□７－３８　活動中の指示・連絡方法についてスタッフ間で確認していますか

森林体験学習活動安全管理チェックシート（実施当日の運営―３）

年　月　日　曜	記入者名	できなかった項目数
年　月　日　曜	記入者名	できなかった項目数

（終了時）
□□７－３９　子どもたちの作品がある場合、その評価を行っていますか
□□７－４０　参加者から感想や意見などを聞いていますか
□□７－４１　活動中におきたヒヤリ・ハットの事例をスタッフから聞き、記録していますか
□□７－４２　活動終了のメッセージを伝えていますか
□□７－４３　施設や備品などの後始末について確認していますか
□□７－４４　使用後の装備、器具について点検し、メンテナンスしていますか
□□７－４５　活動後のスタッフミーティングを実施していますか
□□７－４６　施設や備品などを損傷した場合、管理者に届けていますか
□□７－４７　協力者や関係者に活動終了の報告をしていますか

事故発生時の対応

森林体験学習活動安全管理チェックシート（事故発生への対応）

年	月	日	曜	記入者名	できなかった項目数
年	月	日	曜	記入者名	できなかった項目数

（事故発生時）

□□８－１　事故の発生を統括責任者に連絡しましたか
□□８－２　被災者のケガの状態を確かめ、応急手当をしましたか
□□８－３　被災者の移動が可能な場合、被災者を安全な場所に移動させましたか
□□８－４　他の参加者を安全な場所に誘導しましたか
□□８－５　救助者の安全を確保したうえで、被災者を救助しましたか
□□８－６　被災者のショックを和らげる励まし（声かけなど）を行いましたか
□□８－７　被災者の保護者又は家族に事故発生の情報を速やかに連絡しましたか
□□８－８　重大な事故の場合、関係機関に搬送、救助を依頼しましたか
□□８－９　自分たちで搬送する場合、役割分担を決めていましたか
□□８－１０　警察の事情聴取やマスコミへの対応者を決めて対応しましたか
□□８－１１　事故現場の保全（写真、ビデオ撮影）をしましたか
□□８－１２　事故発生後の対応状況について記録をとりましたか

（事故のケア）

□□８－１３　被災者の保護者・家族 に事故経緯や処置状況などをきちんと説明し、理解を得ていますか
□□８－１４　被災者の回復状況など、その後の経過について把握していますか
□□８－１５　保険会社や弁護士に事故発生や経過を連絡し、指示を受けていますか
□□８－１６　傷害保険の請求手続きを速やかに行っていますか
□□８－１７　重大な事故の場合、他の参加者やその保護者・家族に対して事故の説明をしていますか
□□８－１８　世話になった関係機関に対して、謝意（礼状など）を述べていますか
□□８－１９　事故の発生状況や対応状況を記録していますか
□□８－２０　事故に関する報告書（発生原因、対策など）を作成していますか

森林体験学習活動安全管理チェックシート（事後の評価）

年　　月　　日　　曜　　記入者名　　できなかった項目数

年　　月　　日　　曜　　記入者名　　できなかった項目数

□□９－１　　参加者が子どもである場合、後で保護者からの主催者が意見をもらっていますか
□□９－２　　活動に関する報告書を作成していますか
□□９－３　　活動に関する収支決算書を作成していますか
□□９－４　　活動プログラムの計画と実施の差異について検討していますか
□□９－５　　予算と決算の差異を分析し、対応策を検討していますか
□□９－６　　事故事例を分析し、その処置方法について検討していますか
□□９－７　　ヒヤリ・ハットの事例を分析し、改善策について検討していますか
□□９－８　　主催者に活動結果と改善点について報告していますか

第２部　　森林体験ツアー等（共同企画または自主企画による森林体験ツアー等）

はじめに

この安全マニュアル及び安全管理チェックシートは､森林インストラクターが森林インストラクター自身の研修、国や地方自治体、他団体、旅行社などとの連携により一般の方々やFIJ 会員を森林内に案内する森林体験ツアー等を実施する場合に活用することを想定して作成したものであり、ここに掲載した「安全管理チェックシート」は、様々な森林体験学習活動においてチェックすべき項目を網羅的にリストアップしたものです。

一般社団法人日本森林インストラクター協会（以下、FIJ という）としては、第２部及び第３部の全体を活用して森林インストラクターが活動の安全管理を行うことを強く推奨し、これをもって、FIJ の安全マニュアルとするものです。

＊＊＊

FIJ 全国研修会のように参加者が森林インストラクター資格者等である場合と､一般の人々が参加者である企画の場合とでは、参加者の安全管理能力においては、全体として前者が優っていることは言うまでもありません。しかし、森林内で活動する企画を提案し、準備し、実施する立場からすると、時系列的にチェックすべき項目や内容は大きく変わらないと考えられます。

実際、森林インストラクター資格者が、森林観察会の下見準備の段階で大きなケガをした事例もあります。油断するところに、事故の危険は潜んでいますが、人間である以上、どんなベテランの森林インストラクターも勘違いや思い違いにより判断ミスをする可能性があると肝に銘じることも必要です。

以上の考えを基に、ここでは、参加者が森林インストラクター資格者であるか、一般の人々であるかを区別せずに適用できるよう、あらゆる場合に想定される項目を網羅したチェックシートとなっています。

したがって、実際に研修や講座、森林体験ツアーを企画実施する主催者や指導者は、活動の規模、内容、場所、季節などに応じて、このチェックシートを参考として、該当する項目を選び、各々の活動にふさわしい活動チェックシートを作成した上で、チェックする必要があります。

（１） 森林の総合利用の推進について

本題からやや外れますが、そもそもなぜ、森林内での活動、すなわち、森林インストラクターの活動が大切なのでしょうか。

森林インストラクターの活動目的の柱となるものに、「森林の総合的な利用の推進」、「山村及び林業の活性化に資する」及び「森林環境教育の一層の推進」があります。このような活動目的を達成するためには、より多くの人々、特に普段は森林や林業に直接関わらない、多くの都市に住む人々や森林環境教育の指導者などに、実際に森林を訪れてもらい、森林の素晴らしさを楽しむことから始めることが一番です。その案内人の役割を果たすのが森林インストラクターです。

森林を訪れること無しに、森林や森林を取り巻く自然環境、森林と切り離すことのできない山村の人々の暮らしや森林文化について理解することはできません。森林に親しみ、森林の恵みに感謝し、畏敬の念をもって自然に接するという日本人の森林や自然に対する心のあり方は、日本における森林文化の基盤であり、森林を訪れると言うことは、このことを後世に引き継いでいくことにもつながるのです。

しかしながら、森林を訪れるということは、森林という多様な自然の中に身を置くことであり、危険に遭遇する可能性を常に孕んでいます。また、近年、大きな自然災害が多発しています。自然の力の大きさや自然が本来的に孕んでいる危険性、これらに対して自分や周囲の人々の身を守る対策の大切さを改めて認識することにより、私たちの暮らしは成り立つものといえます。

森林空間の素晴らしさを楽しみ、学び、森林環境を活用するという森林総合利用の推進は、森林を守り、山村の人々や私たち自身の暮らしを守るために必要不可欠な活動であり、ひいては持続可能な社会の構築に資するものといえます。

１．安全管理チェックシートの活用の前に

（１）様々な森林体験ツアーの形態（企画の形態、募集方法、参加者、移動手段、行程）

一口に森林体験ツアーと言っても、様々な形態がありますが、次のとおり、まず、「A 旅行業法に基づいた旅行業者しか主催できない旅行」と「B その他の旅行」があります。

A　旅行業法による旅行業者が実施する旅行

※手数料をとって宿泊または運送を手配する旅行

企画旅行
- ①募集型パッケージ旅行
- ②受注型企画旅行

手配旅行
- ③募集型の旅行等（大きな会員組織の旅行を含む）

B　その他の旅行

④現地集合の森林体験ツアー（自然観察会なども含む）
⑤顔見知りの会員組織、知人等のみの森林ツアー（手数料無しに宿泊または運送を手配）

A と B の大きな違いは、宿泊または運送を手配する旅行であるか、参加者から手数料を徴収しているかどうかという点です。宿泊施設や運送業者へ支払う代金のほかに参加費を徴収している場合、額の多少に関わらず手数料と解釈されることがあり注意が必要です。

以上は、旅行業法という消費者保護の観点で定められた法律に関わるコンプライアンスの問題であり、安全管理以前の問題ですが、その意味を理解し、適法な企画であることが当然のこととして必要です。

上図の①～③の旅行は、登録旅行業者が主催しなければならず、④と⑤は、森林インストラクター自身が主催する可能性もあるものです。

上図の①～③の旅行の場合で森林インストラクターが指導的な立場になるのは、一般には、現地に着いてから現地を離れるまでです。森林インストラクターはこの間の安全管理について一定の責任を負うことになりますが、そのことを旅行業者と事前に打ち合わせ、確認しておく必要があります。これに応じて、付保する保険をどうするかの判断も変わってきます。

実際の旅行企画においては様々なケースが考えられ、森林インストラクターと旅行業者の間で、想定される様々なケースや段階における責任の所在を明確化していくことが大切です。このことについては、今後も実績を積み重ねながら検討していくことが必要です。

上図の④と⑤の旅行やイベントの場合も、主催者が森林インストラクター自身である場合は森林インストラクターが全体の責任を持つことになりますが、主催者が別の組織等で、森林インストラクタ

ーは講師または指導者として主催者から依頼された場合、安全管理の責任の分担が生じますので、主催者と事前に打ち合わせ、確認しておく必要があります。

また、規模の大きな展示会等のように大きなイベントにおいて、小さなセクションとしてブースを受け持つ場合などは、施設等の安全管理などを除き、ブースの出展者や森林インストラクターが指導者としての責任を負うことになると考えられます。

万一の事故に備えて、傷害保険や賠償保険をかけることは、企画実施者のマナーとされています。上図の①～③の旅行のように、主催者が旅行業者である場合、保険の付保は旅行業者が行うことになりますが、どのような保険を掛けているか契約段階でよく確認しておく必要があります。

上図の④と⑤の旅行やイベントの場合は、主催者が判断して、適切に保険を付保することが必要です。この場合も森林インストラクターが指導者として依頼される場合には、、事前に主催者に保険の内容について確認しておくことが大切です。詳しくは、第３部を参照してください。

２．安全管理の基本

指導者として知っておくべき安全管理の基本事項は以下のとおりです。

・ボランティアであっても法的な責任を負う

森林インストラクターの活動で、依頼されて、善意で無報酬で活動を企画したり指導したりする可能性がありますが、「参加者の生命・身体・安全を保護すべき地位に立ったものは、その地位に応じた法的責任を負う」ということは、十分認識していることが必要です。

また、以下のことに留意することも大切です。

・指導者側がやるべきことをやっていないで事故が起きることが多い
・指導者として当たり前なことができていないため事故が起きる
・指導者がやるべきことをやっていて法的過失がなければ法的責任は生じない
・指導者がやらなければならないこと、そのスタンダード（安全マニュアルまたは安全チェックシート）を理解し実行する

以上から、すなわち、指導者としてやるべきことは何かを理解しそれを実行することが必要であるということです。また、近年、参加者に高齢者が含まれることも一般化しており、そのことに配慮した安全管理チェックシートであることも必要です。

また、事故の事例を検証すると、その９割以上が、**「現場活動における安全管理の３本柱」**が徹底して行われていなかったことや指揮命令系統が不正確だったことに起因しているといわれます。

（１）現場活動における安全管理の３本柱

①事前の下見

下見の結果に伴い必要に応じて計画案を修正する。

②天候判断

最新の気象情報をインターネット等で収集するとともに、実施地域に伝えられている観天望気の情報に配慮するほか、現地に精通した指導的立場の人の観天望気等も参考にして判断する。

③現場説明（セーフティートーク）

活動の当日、活動内容を参加者に周知し、参加者の様子を確認する。

上記の安全管理の３本柱を徹底することと同時に、企画段階において、是非必要な心構えとして次の４項目が考えられます。

（２）企画段階で必要な４つの心構え

①余裕をもったプログラム

プログラムは無理がなく余裕をもったものとし、活動の目的・内容・対象者を明確にし、それにふさわしい場所・時間・指導者・施設・機材などを準備し活動プログラムを構成する。

②下見はスタッフ全員で行う

活動プログラムを立てるに当たっては、必要に応じて、複数回の下見を実施することも考慮し、実施日に近い日のできるだけ実施条件に近い状況において、当日のスタッフ全員で行うことが望まれます。

③事前説明会等により信頼関係の構築

規模の大きな活動では、参加者に対して活動に関する様々な情報を伝える必要があります。このため、事前説明会を開催し、活動の趣旨やリスクとその対処方法の説明を行い、様々な懸念や不安を除き、信頼関係を作り上げる努力を行うことが必要です。

④スタッフの力量を最大限に発揮する

安全にプログラムを実施するためにスタッフの力量を最大限に発揮することが必要。このため、統括責任者、プログラムの指導や進行を担当するスタッフ、参加者の安全や生活指導を担当するスタッフ及び支援する裏方の人材、人数を確保し、役割分担と連携体制を十分確認します。

３．安全管理チェックシート

はじめに

この安全管理チェックシートは、森林インストラクターが一般の方々（森林インストラクター研修も含む）を対象とし、高齢の参加者を含む森林講座を企画または実施する場合を想定して、心がけたい安全管理上のチェック項目を網羅的に選定し列挙したものです。

このチェックシートを利用する場合は、実際の企画に必要な項目を残したものを作成するなどして、活用してください。

このチェックシートでは、各シートの冒頭に、以下のように、①記入日、②記入者名、③できなかった項目数の記入欄（本チェックシートは二段）を設けています。

年　　月　　日　記入者名　　できなかった項目数

続いて、項目ごとに、チェック欄（□）を二つ設けています。

□□１－１　　（チェック内容の記載）

このように、各チェックシートは 2 回分のチェック用として使用することができるので、違いを比較することによって、問題点の洗い出しや改善措置の検討に役立てやすくなっています。

①安全管理チェックシートとは。

安全管理チェックシートとは、活動を実施する際に、企画づくりから実施後の評価まで、各プロセスの各段階において、安全を確保する観点から必要な事項をリスト化し、それぞれについて実施状況の確認（チェック）を行えるように取りまとめたシートのことです。安全管理チェックリストということもあります。

②安全管理チェックシートの構成

近年、森林インストラクターの活動は、企画内容、場所、形態、対象も若い世代から高齢者まで、極

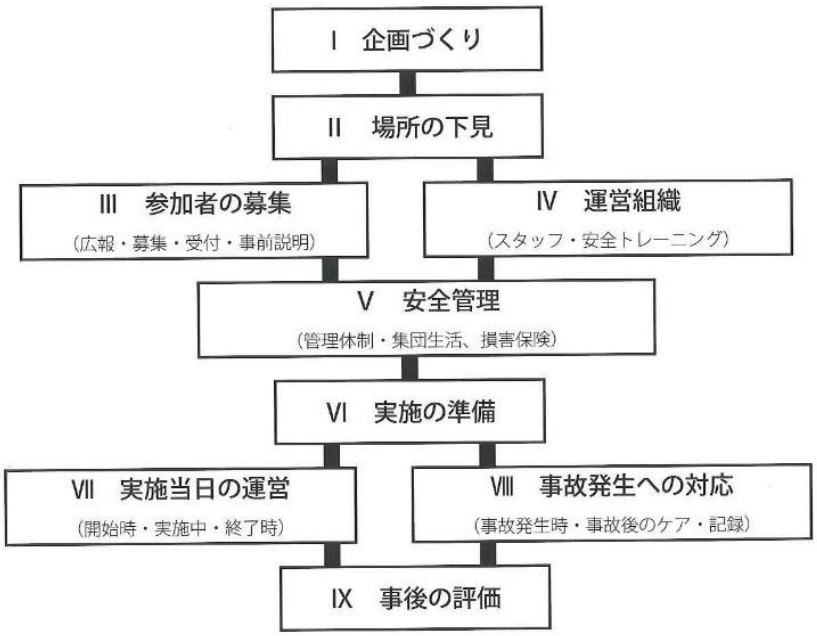
めて多岐にわたっています。

総括的なリスク管理マニュアルだけでなく、活動の種別（参加者、現地の条件等）ごとに、安全管理チェックシートを是非、準備し活用することが必要といえます。

そして、これらのマニュアルやチェックシートは、継続的に見直し、活動団体やグループでしっかり共有することが大切です。

チェックシートの構成としては、時系列順に考えると、一般に下図のように９項目で構成されます。また、安全管理チェックシートは、活動の実態に合わせて作成することが大切です。

安全管理チェックシートの構成



以下に掲載している安全管理チェックシートでは、上記の９項目を考慮した上で、次の３段階の項目にまとめて区分しています。

Ⅰ　企画段階のチェックシート（上記のⅠ、Ⅱ）
Ⅱ　実施段階のチェックシート（上記のⅢ、Ⅳ、Ⅴ、Ⅵ）
Ⅲ　実施当日のチェックシート（上記のⅦ、Ⅷ、Ⅸ）

（１）チェックシート作成上の重要項目

各チェックシートに①記入日、②記入者名、③チェック欄を記入する。

また、以下に留意して作成する。

a. 企画づくり

・意図や目的が明確であること
・関連する法令を遵守しているかなど

b. 場所の下見

・集合場所は分かりやすく安全な場所か
・危険の予測、分析、対処の方法
・携帯電話の通話範囲確認
・トイレの状態
・倒木・枯れ木・落枝の危険性の確認など

c.参加者の募集

・関係者（現地の管理者・市町村などを含む）に活動内容を周知しているか
・傷害保険の加入告知
・必要装備・活動のリスクについての告知
・天候によるプログラム変更の告知
・募集にあたってのトラブル問合せ先
・参加者名簿を作成しているかなど

d.運営組織

・スタッフの人材・人数は適切か
・危険予知訓練が可能な人材はいるかなど

e.安全管理

・高齢者が参加する活動の場合は、高齢者に対する配慮がなされているかなど

f.実施の準備

・活動前のスタッフミーティング
・天候による活動変更の決定連絡体制など

g.実施当日の運営

・スタッフと参加者のコミュニケーション
・危険個所の説明と危険個所での再度説明や対応など

h.事故発生の場合の対応は迅速、誠実になど

i.事後のヒヤリ・ハットの分析・改善策など

上記に留意していろいろなケースを想定し、網羅的に作成した安全管理チェックシートが、次ページ以降のチェックシートです。したがって、実際の活動に適用する場合は、その活動内容や状況に応じて、不要な項目は削除し、もし不足している項目があれば追加し、活動に適合するチェックシートを作成して利用してください。

なお、チェックシートに追加した項目があれば、今後の安全マニュアルの見直しの貴重な参考資料となりますので、FIJ 安全委員会または FIJ 事務局にお知らせ下さい。

Ⅰ　企画段階のチェックシート

森林体験ツアー等実施安全管理チェックシート（企画づくり）

年　　月　　日　　曜　記入者名　　できなかった項目数

年　　月　　日　　曜　記入者名　　できなかった項目数

□□１－１　活動の意図や目的が明確になっていますか
□□１－２　参加者の対象範囲が明確になっていますか
□□１－３　活動目的にふさわしい活動内容になっていますか
□□１－４　活動目的にふさわしい活動フィールドですか
□□１－５　実施責任者や担当者が決められていますか
□□１－６　関係者や地元の協力が得られていますか
□□１－７　バスを手配している場合、運行経路と時間について旅行会社等と確認がとれていますか
□□１－８　わかりやすい企画書になっていますか
□□１－９　収支計画がきちんと立てられていますか
□□１－１０　関連する法規などを遵守していますか

森林講座企画実施安全管理チェックシート（場所の下見）

年　　月　　日　　曜　　記入者名　　できなかった項目数

年　　月　　日　　曜　　記入者名　　できなかった項目数

□□２－１　実施日における交通機関ダイヤを確認していますか
□□２－２　集合場所はわかりやすい、かつ安全な場所となっていますか
□□２－３　案内地図と現地の状況は一致していますか
□□２－４　休憩施設や休憩地点は、安全な場所となっていますか
□□２－５　スズメバチ、マムシ、クマなどの危険な動物の有無を確認していますか
□□２－６　ウルシ、ハゼノキなどのかぶれる毒性の強い植物の有無を確認していますか
□□２－７　野生動物による農作物・林業被害防止等のための狩猟活動や罠の仕掛け、電気柵の有無を確認していますか
□□２－８　活動プログラムの所要時間を確認していますか
□□２－９　携帯電話の通話範囲を確認していますか
□□２－１０　水の補給地点を確認していますか
□□２－１１　避難施設を確認していますか
□□２－１２　エスケープルートを確認していますか
□□２－１３　活動を行うための十分な広さと危険物がないことが確保されていますか
□□２－１４　トイレの所在とその使用状況を確認していますか
□□２－１５　臨時のトイレを設置する場合、その場所を決めていますか

□□２－１６　最寄りの救急病院、診療所などの医療施設の連絡先と連絡方法、そこまでの到達時間を確認していますか
□□２－１７　最寄りの消防署（救急隊）からの距離と到達時間及びルートを確認していますか
□□２－１８　最寄りの AED までの距離とそこまでの到達時間を確認していますか
□□２－１９　地元の関係機関（役場、警察、消防署など）と情報を共有していますか
□□２－２０　救命、救急連絡先（電話番号など）を確認していますか
□□２－２１　活動場所の管理者又は所有者の使用許可をもらっていますか
□□２－２２　案内板、道標などの案内施設は正しく表示されていますか
□□２－２３　山歩きの場合、迷いやすい分岐路やけもの道などを確認していますか
□□２－２４　保安施設（杭、柵、ロープなど）に異常はありませんか
□□２－２５　落石、崩落、雪崩などの危険性などについて確認していますか
□□２－２６　倒木、枯れ木、落枝などの危険性などについて確認していますか

Ⅱ　実施段階のチェックシート（企画の実施は募集から始まる）

森林体験ツアー等実施安全管理チェックシート（参加者の募集―１）

年　月　日　曜	記入者名	できなかった項目数
年　月　日　曜	記入者名	できなかった項目数

（広報）

□□３－１　わかりやすい、関心を惹く募集パンフレットになっていますか
□□３－２　組織の関係者に活動の目的や内容が周知されていますか
□□３－３　市町村、関係団体などに広報のための募集要項を届けていますか
□□３－４　新聞、テレビ、ラジオなどのマスコミ機関に知らせていますか
□□３－５　その他、あらゆる方法で集客の努力をしていますか

（募集・受付）

□□３－６　募集パンフレットには、募集要項（名称、目的、期間、場所、募集人員、応募資格、集散場所、集散時刻、宿泊先、参加費、申込方法等）が記載されていますか
□□３－７　活動プログラムの内容を知らせていますか
□□３－８　天候等により活動プログラムの中止・変更がありうることを知らせていますか
□□３－９　申込者の連絡先（日中連絡がとれる電話番号など）を把握していますか
□□３－１０　活動プログラムを指導する講師を知らせていますか
□□３－１１　参加者の服装、持ち物などの情報を知らせていますか
□□３－１２　参加のキャンセル方法について知らせていますか
□□３－１３　傷害保険への加入について知らせていますか
□□３－１４　参加できる健康状態について知らせていますか
□□３－１５　体験活動上のリスクについて知らせていますか
□□３－１６　参加者の健康状態（蜂アレルギー・食物アレルギーの有無なども）を把握していますか
□□３－１７　募集に当たってのトラブル、問い合わせに対応する責任者を決めていますか
□□３－１８　参加者名簿（氏名、住所、連絡先など）を作成していますか

森林体験学習活動安全管理チェックシート（運営組織）

年　　月　　日　　曜　　記入者名　　できなかった項目数
年　　月　　日　　曜　　記入者名　　できなかった項目数

□□４－１　全体を統括する責任者を決めていますか
□□４－２　活動規模に対してスタッフ数は足りていますか
□□４－３　プログラムの進行を担当するスタッフがいますか
□□４－４　スタッフの役割分担を決め、その記録をとっていますか
□□４－５　森林の生態系について解説できるスタッフがいますか
□□４－６　地形図とコンパスが使えるスタッフがいますか
□□４－７　歩き方の指導ができるスタッフがいますか
□□４－８　生活指導ができるスタッフがいますか
□□４－９　気象情報を読めるスタッフがいますか
□□４－１０　危険な生物への対処ができるスタッフがいますか
□□４－１１　活動に使用する装備や道具の使い方がわかるスタッフがいますか
□□４－１２　携帯電話の使用できるエリアを把握していますか
□□４－１３　緊急時に連絡すべき連絡先やスタッフの携帯電話の番号を確認していますか
□□４－１４　無線機などの通信機器が扱えるスタッフがいますか
□□４－１５　危険予知トレーニングなどの講習を受けたスタッフがいますか
□□４－１６　救助・救命措置ができるスタッフがいますか

森林講座企画実施安全管理チェックシート（安全管理－１）

年　　月　　日　　曜　　記入者名　　できなかった項目数
年　　月　　日　　曜　　記入者名　　できなかった項目数

（安全管理体制）
□□５－１　参加者の健康状態を主催者が把握していますか
□□５－２　時間的な余裕を持たせたスケジュールとなっていますか
□□５－３　季節に適合した活動プログラムとなっていますか
□□５－４　岩場、湖沼など人命にかかわる危険な場所を点検していますか
□□５－５　危険な活動に対応する装備を準備していますか
□□５－６　最新の気象状況を把握できる準備ができていますか
□□５－７　緊急時のエスケープルートが確保または検討されていますか
□□５－８　安全の行動基準（中止・変更など）が作成されていますか
□□５－９　活動場所の近くに避難できる施設や場所を確保していますか
□□５－１０　事故発生時の行動チャートやマニュアルを作成していますか
□□５－１１　事故発生時のスタッフの役割が周知されていますか

森林体験ツアー等実施安全管理チェックシート（安全管理―２）

年　月　日	記入者名	できなかった項目数
年　月　日	記入者名	できなかった項目数

（損害保険）

□□５－２０　参加者は傷害保険に加入していますか
□□５－２１　スタッフは傷害保険に加入していますか
□□５－２２　主催者は損害賠償責任保険に加入していますか
□□５－２３　宿泊を伴う活動の場合、旅行保険に加入していますか
□□５－２４　自動車を使用する場合、自動車保険に加入した車両を使っていますか
□□５－２５　保険会社（代理店）に相談する人がいますか
□□５－２６　保険金額、免責事項が分かっていますか

森林講座企画実施安全管理チェックシート（実施の準備）

年　月　日　曜	記入者名	できなかった項目数
年　月　日　曜	記入者名	できなかった項目数

□□６－１　スタッフ用の活動マニュアルを作成し、説明していますか
□□６－２　活動前のスタッフミーティングを行い、その記録をとっていますか
□□６－３　下見情報をスタッフ全員で共有していますか
□□６－４　天候による実施可否の判断と連絡体制を整えていますか
□□６－５　荒天時の代替プログラムの実施体制を確認していますか
□□６－６　スタッフに最新の気象情報を伝えていますか
□□６－７　スタッフに最新の交通情報を伝えていますか
□□６－８　スタッフの健康状態を確認していますか
□□６－９　実施体制に変更がある場合、スタッフにその情報を伝えていますか
□□６－１０　受付の準備は整っていますか
□□６－１１　新聞、テレビなどの取材がある場合、対応者を決めていますか
□□６－１２　器具を使用する場合、器具の作動状況を点検していますか
□□６－１３　救急用品の内容を点検（使用期限のチェックを含む）していますか
□□６－１４　救助、救命のための装備を点検していますか

Ⅲ　実施当日の運営のチェックシート

森林体験ツアー等実施安全管理チェックシート（実施当日の運営－１）

年	月	日	曜	記入者名	できなかった項目数
年	月	日	曜	記入者名	できなかった項目数

（開始時）

□□７－１　参加者名簿に基づき、参加者を確認していますか
□□７－２　遅刻者に対する対応策がとれていますか
□□７－３　スタッフや関係者を紹介していますか
□□７－４　プログラムの目的や行動予定をわかりやすく説明していますか
□□７－５　当日歩く場所の地図を参加者に渡して説明していますか
□□７－６　スタッフと参加者とのコミュニケーション作りをしていますか
□□７－７　グループの編成は適正ですか（参加者が 20 名程度を超える場合２グループ以上に編成する）
□□７－８　当日の健康状態が優れない参加者への対応は適切ですか
□□７－９　宿泊を伴う場合、集団生活の注意事項をわかりやすく説明していますか
□□７－１０　参加者の健康状態を確認していますか
□□７－１１　上着、ズボン、靴、帽子などの服装を点検していますか
□□７－１２　雨具、水筒、手袋などの携行品を点検していますか
□□７－１３　活動エリア内の危険個所について説明していますか
□□７－１４　「自分の安全は自分自身で守る」ことを納得させていますか
□□７－１５　移動中の経路の安全確認は十分ですか
□□７－１６　携帯する水筒には、傷の洗浄用を兼ねて、水道水を入れていますか
□□７－１７　出発までに用便を済ませるよう知らせていますか
□□７－１８　準備体操やアイスブレーキングの実施などにより不必要な緊張や懸念を取り去っていますか

森林体験学習活動安全管理チェックシート（実施当日の運営―２）

年	月	日	曜	記入者名	できなかった項目数
年	月	日	曜	記入者名	できなかった項目数

（実施中）

□□７－１９　統括責任者は、グループ全体を常に把握していますか
□□７－２０　スタッフは、活動プログラムを適切に指導していますか
□□７－２１　プログラムに対する参加者の反応を把握していますか
□□７－２２　道具の使い方を適切に指導していますか
□□７－２３　危険な場所にはスタッフを配置していますか
□□７－２４　危険な個所では、その都度注意を喚起していますか（濡れた木道や排水溝の鉄の格子蓋、緩い下り坂で転倒骨折の事例がある）
□□７－２５　天候の変化などに応じて柔軟に対応していますか（危険と判断したら計画を変更または中止する）

□□７－２６　危険な個所を発見したとき、他のグループに伝えていますか
□□７－２７　活動中のペースを確認していますか（ペースが速すぎ貧血や熱中症で倒れることがある）
□□７－２８　休憩ポイントなどで人数を確認していますか
□□７－２９　活動中における服装の乱れに注意していますか
□□７－３０　参加者の疲労具合を把握していますか
□□７－３１　雨具の着用について指導していますか
□□７－３２　トイレがある場所を周知していますか
□□７－３３　グループを離れる場合、必ずスタッフに伝えることを周知していますか
□□７－３４　緊急のトイレなどで隊列を離れる場合、離れるときと帰ってきたときに必ず指導者に報告するよう注意していますか
□□７－３５　自由時間（昼食など）での行動範囲を周知していますか
□□７－３６　参加者が互いに交流する自由な時間が用意されていますか
□□７－３７　活動中におけるゴミ処理の方法について説明していますか
□□７－３８　活動中の指示・連絡方法についてスタッフ間で確認していますか

森林講座企画実施安全管理チェックシート（実施当日の運営―３）

年	月	日	曜	記入者名	できなかった項目数
年	月	日	曜	記入者名	できなかった項目数

（終了時）
□□７－３９　参加者から感想や意見などを聞いていますか
□□７－４０　活動中におきたヒヤリ・ハットの事例をスタッフから聞き、記録していますか
□□７－４１　活動終了のメッセージを伝えていますか
□□７－４２　施設や備品などの後始末について確認していますか
□□７－４３　使用後の装備、器具について点検し、メンテナンスしていますか
□□７－４４　活動後のスタッフミーティングを実施していますか
□□７－４５　施設や備品などを損傷した場合、管理者に届けていますか
□□７－４６　協力者や関係者に活動終了の報告をしていますか

事故発生時の対応

森林体験ツアー等実施安全管理チェックシート（事故発生への対応）

年	月	日	曜	記入者名	できなかった項目数
年	月	日	曜	記入者名	できなかった項目数

（事故発生時）

□□８－１　事故の発生を統括責任者に連絡しましたか
□□８－２　被災者のケガの状態を確かめ、応急手当をしましたか
□□８－３　被災者の移動が可能な場合、被災者を安全な場所に移動させましたか
□□８－４　他の参加者を安全な場所に誘導しましたか
□□８－５　救助者の安全を確保したうえで、被災者を救助しましたか
□□８－６　被災者のショックを和らげる励まし（声かけなど）を行いましたか
□□８－７　被災者の保護者又は家族に事故発生の情報を速やかに連絡しましたか
□□８－８　重大な事故の場合、関係機関に搬送、救助を依頼しましたか
□□８－９　自分たちで搬送する場合、役割分担を決めていましたか
□□８－１０　警察の事情聴取やマスコミへの対応者を決めて対応しましたか
□□８－１１　事故現場の保全（写真、ビデオ撮影）をしましたか
□□８－１２　事故発生後の対応状況について記録をとりましたか

（事故のケア）

□□８－１３　被災者の家族に事故経緯や処置状況などをきちんと説明していますか
□□８－１４　被災者の回復状況など、その後の経過について把握していますか
□□８－１５　保険会社や弁護士に事故発生や経過を連絡し、指示を受けていますか
□□８－１６　傷害保険の請求手続きを速やかに行っていますか
□□８－１７　重大な事故の場合、他の参加者やその保護者・家族に対して事故の説明をしていますか
□□８－１８　世話になった関係機関に対して、謝意（礼状など）を述べていますか
□□８－１９　事故の発生状況や対応状況を記録していますか
□□８－２０　事故に関する報告書（発生原因、対策など）を作成していますか

森林講座企画実施安全管理チェックシート（事後の評価）

年　月　日　曜	記入者名	できなかった項目数
年　月　日　曜	記入者名	できなかった項目数

□□９－１　活動に関する報告書を作成していますか
□□９－２　活動に関する収支決算書を作成していますか
□□９－３　活動プログラムの計画と実施の差異について検討していますか
□□９－４　予算と決算の差異を分析し、対応策を検討していますか
□□９－５　事故事例を分析し、その処置方法について検討していますか
□□９－６　ヒヤリ・ハットの事例を分析し、改善策について検討していますか
□□９－７　主催者に活動結果と改善点について報告していますか

第３部　　安全確保のために留意するその他の事項

１．ヒヤリハットの重要性について

「大きな事故に至るまでには小さな事故、さらに、事故には至らなかったがその危険性を予見させる事象の積み重ねがある」とのハインリッヒの法則については、多くの方々ご存知のことと思います。実際、現場を経験するとこの法則の正しさを実感させられます。

そこで、実際に発生したヒヤリハットを報告し、関係者がその内容を共有して次の安全確保に活かすことが重要です。机上で考えつかないこと、或いはそれほど重要ではないと思われることでも、現実に起こったという事実には、強い説得力があります。

ヒヤリハットの報告様式を定め、報告を習慣化し、その報告を共有する仕組みを作ることが大切です。

２．保険について

（１）スポーツ・レクリエーション保険、イベント保険

保険の名称は、スポーツ安全保険、レクリエーション保険など、いろいろあります。保険の契約の形態も多様で、年度単位で、一定の活動団体の活動で発生した事故が対象となるもの、イベントごとに契約するものなどがあります。参加人数によって保険金額も異なります、保険の種類としては傷害保険と損害賠償保険があります。オプションの条件があるものもあります。

注意すべき点としては、一般に、動力を用いる活動の事故は保険の対象としていない点です。

（２）ボランティア保険

非営利のボランティア活動を対象とした保険。グループの規約により実施する活動や社会福祉協議会に登録されている活動などが対象で、人数、日程等に応じて各種の保険があります。

2019 年度より、「熱中症特約」が追加されているものが一般化しています。

自然観察会やハイキングなども対象になりますが、ボランティア活動を目的としない団体等の組織的な活動や収益を目的として実施する事業は対象としてません。

（３）国内旅行保険

宿泊を伴う一般的な国内旅行が対象となります。個人の場合と団体の場合があります。

2019 年度においても、「熱中症特約」に関する情報はありません。

（４）林業体験活動にも適用される保険

森林ボランティア活動を想定した保険で、チェーンソーなどの動力を用いる作業も保険の対象となるものもあります。

（５）賠償保険について

器物や施設の破損や人身にかかわる重大事故が発生した場合への備えとなります。

被保険者としては、主催者や指導者を想定しており、①偶然の事故により、②他人に損害を与えた場合、③法律上の賠償責任を負担することにより、④被保険者が被る損害を補償するものです。

ケガや死亡、他人の物を壊した場合に限られ、野外活動において想定される「賠償責任」とは、大きく分けると次の３つが考えられます。

a. 指導中における損害
b. キャンプ等における食中毒による損害
c. 貴重品を預かって起きた損害

また、「賠償保険」の支払い対象は、

a. 治療費・入院費・通院費、慰謝料、休業費などの損害賠償金
b. 保険会社の承認を得て支出した訴訟等の費用

c. 護送、その他緊急措置に要した費用については、被保険者に賠償責任がないことが後で判明した場合でも補償されます。

賠償保険が適用されるのは、被害者から損害賠償を請求された場合で法律上の賠償責任を負担する場合に限るので、損害賠償請求されていない段階で、保険に加入しているかどうかを被害者等に説明する性質のものではありません。

参考１：この『安全マニュアル・安全管理チェックシート』の策定に当たっての基本的な考え方

（１）安全マニュアルは活用されなければ価値がないという観点から、一般論は極力絞り、FIJ の活動や推進する活動の実態に合わせ、安全管理チェックシートを主体とし、実用的なものとした。

（２）FIJ の活動や活動を取り巻く社会的、自然的な状況は、時と共に変化していくことから、安全マニュアルは、活動の実態に合わせて逐次見直すこととする。

（３）具体的な安全管理を可能とするため、安全管理チェックシートを活用することとし、安全管理のチェックについては、Ⅰ　企画段階　Ⅱ　実施段階　Ⅲ　実施当日の運営の時系列的に３段階で行うこととする。

（４）安全管理チェックシートは、一定の条件のもとでの企画に対して、チェック項目を網羅的に提示したものであり、実際の活動の条件に適合したものとするためには、チェック作業を行う前に、該当しない項目は削除して、活用することを想定する。

（５）ヒヤリハットの重要性を認識し、安全マニュアルを活用した企画のヒヤリハットの事例を一定の様式を定めて収集活用できるように検討する。

（６）会員等が活動の安全確保について繰り返し認識を新たにできるよう、常時、安全についての認識を新たにする機会の確保に努めることとする。

参考２

本書は、下記（※）の既存の森林に関わる安全マニュアル等を踏まえ、FIJ の活動においてこれまで経験した企画を網羅するかたちで整理し、安全管理上必要なチェック項目をリストアップし、安全管理チェックシートとしました。

（※）

・森づくりグループ安全白書作成委員会編『森林ボランティア　転ばぬ先の安全読本』2005.3.30
・林野庁監修（社）全国森林レクリエーション協会『森林体験活動指導者のための　安全管理ハンドブック』2006.6.20
・独立行政法人国立青少年教育振興機構編『学校で自然体験活動をすすめるためにー自然体験活動指導者養成講習会テキストー』2010.3
・森づくり安全技術・技能全国推進協議会『森林ボランティアのための　森づくり安全技術マニュアル基本編・動力編』2013.6.30

参考３　策定の経緯

2016.11「参加者に子どもが含まれる活動」を想定した「安全管理チェックシート」として FIJ ホームページに公表。

2018.11　上記の一部修正と併せて、３部構成の「安全マニュアル・安全管理チェックシート」（案）としてホームページに公表し、広く意見を求めた。

2019.4　上記（案）に対する意見を踏まえ、３部構成の「安全マニュアル・安全管理チェックシート」として確定版を作成し、FIJ ホームページに公表。

2019.11 ヒヤリ・ハットを踏まえ、安全チェックシート P30 を改訂。その他、表現や字句について修正。